第６回　地区別懇談会【①青井地区】

日時：令和3年9月17日（金）18:30～

場所：東西コミュニティセンター

次 第

１．開会挨拶

２．地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明

（１）地区別懇談会の振り返りと情報提供　【資料１】【資料２】【資料３】

（２）青井地区　復興まちづくり計画（案）について【資料４】

３．地区ごとの話し合い

（１）復興まちづくりの具体的イメージや手法案について

〇取組み方針、具体の取組み、イメージの更新案について、問題はないか？

〇地区の将来像、道路整備や土地利用計画案について、問題はないか？

〇地区全体の活性化に向けて重点的に協働して取組むべき施策やアイデアは？

（２）今後の進め方、次回以降について

４．全体共有

５．その他

６．閉会挨拶

【資料】

・資料１：地区別懇談会だより第３号

・資料２：地区別懇談会中間報告会まとめ

・資料３：人吉市復興まちづくり　進め方と本日の内容について

・資料４：青井地区　復興まちづくり計画（案）

資料１

【青井地区】『復興まちづくりの方向（更新案）』について ～第4･5回懇談会の意見概要②～

□は方向案の柱です。黄色網掛け箇所が第 4･5 回地区別懇談会における参加者の主な意見です。
(※決まった内容や事実確認をした内容ではありません)

取組みの柱		具体の取組み(案)
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生	【住まい再建】	□安全性を高める建て方の誘導 □災害公営住宅の導入検討
	【コミュニティ再生】	□地域の集会所等の再建 ・駒井田町会館は再建のための設計を終え、9月に解体し3月完成予定。
②力強い地域経済の再生	【生業再建】	□個々の事業所の再建支援 ・解体が進み利用できるテナント数も少なくなっている。今あるテナントを活用するためにも、なりわい補助金の範囲を拡大するべきでは。 □継続的な賑わいの創出の取組 □公共交通を活かした人の滞留の促進
③災害に負けないまちづくり	【避難対策】	□地域の安全性の向上に資する道路の整備 ・人吉西小学校に上がる東西のルートを整備してほしい。【駒井田町・城本町】 □垂直避難や車移動に留意した避難場所の確保 ・相談なしに避難ビルとして記されている。 ➔【市】垂直避難ができる高い建物の候補地として記載している。あくまでも候補地であり、今後ご相談する。正式にお願いする場合は、協定の取り交わし等を行う。低未利用地についても、特定の土地を指しているのではなく、今後の方向性を見定めていきたい。 ・避難ビル候補に対して町内会が単独で依頼をして良いか。 ➔【市】当面は市を通して調整する。 ・ペットの避難の受け入れ場所やルールの整理を。 □防災情報の伝達機能強化 □自助共助の避難体制の構築 ・事前に（普段から）避難の準備・備えが必要。 ・避難訓練は参加してもらえるような工夫が必要。夜の時間帯についても実働的な訓練が必要。 ・定期的に民生委員等が集まり、避難の計画(フローチャートで誰が誰を見るか)を決めている。一人暮らし高齢者はほぼ自宅で垂直避難を行う計画。【駒井田町】 ・町内会長が避難の呼びかけや支援の役割を担っているが、町内で役割分担をした方が良い。【城本町】 ・町内での組織体制の強化が必要。市内の良い事例は水平展開すべき。専門家と連携しては。 □地域特性を踏まえたマイ・タイムライン、地区防災計画の作成 □災害ゴミへの対応
	【復興まちづくり】	□青井地区のグランドデザインの作成 ・中心市街地との連携が大切。使える土地を公園として整備しては。九日町は公費解体を行った土地も多いため、美しいまちをつくっていけるのでは。 □面的まちづくり手法を活用した安全で快適な市街地環境形成 □賑わいや交流・コミュニティの活性化につながる拠点機能の強化 ・複合利用ゾーンは民間と公共の共同利用や、協定により避難ビルとするなど考えられないか。 □球磨川を活かしたまちづくり
	【治水･土砂災害対策】	□流域治水プロジェクトの推進 ・山田川、鬼木川は堤防の決壊が懸念され、支流の堤防の強化を。 □小河川の氾濫対策の推進・促進 ・国道 445 号蓋掛け側溝の堆積土砂の早期点検と撤去を。【上青井町･下青井町】 ➔【市】道路河川課に情報を伝えており、進捗があれば報告する。 □急傾斜地対策

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより Vol.3 青井地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第４回・第５回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、**地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」**として位置づけ、それぞれの地区ごとに**「地区別懇談会」**で話し合いを進めています。

青井地区の対象地区は、上青井町、中青井町、下青井町、駒井田町、城本町です。

◆第４回地区別懇談会
1 治水対策に関する国･県からの説明
2 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
・地区別懇談会の振り返りと情報提供
・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向（更新案）について
3 地区ごとの話し合いと全体共有
・復興まちづくりの具体的イメージ案について
4 今後の進め方について

◆第５回地区別懇談会
1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
・地区別懇談会の振り返りと情報提供
・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向（更新案）について
2 地区ごとの話し合いと全体共有
・復興まちづくりの具体的な取組み方向･イメージや手法案について
3 今後の進め方について

7 月 20 日(火)、27 日(火)両日 18 時半から、人吉東小学校体育館で開催しました。(参加人数:23 名、14 名)

復興まちづくり計画の策定に向けて

地区別懇談会での検討をもとに、10 月頃を目途に具体的な復興まちづくりの取組をまとめた**「復興まちづくり計画」**を策定します。

◆地区別懇談会の参加方法
・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
多くの方のご参加をお待ちしております。

参加募集中

◆地区別懇談会の進め方
・9~10 月の間に、概ね月 1 回（1~2 回程度）の開催を予定しています。
次回の開催予定：**第６回 ９月 17 日（金）18 時 30 分より**
次回のテーマ予定：**復興まちづくり計画（素案）**等について

会場：東西コミュニティセンター

（注）地区別懇談会については、新型コロナウィルス感染症の状況等で、変更する場合があります。

◇復興まちづくり計画とは
・復興計画を実現するために取り組むべき内容を示すものです。
・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
・住民主役の計画づくりに対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
・計画期間は、令和４～9 年度の概ね 6 年間。（令和 3 年度からの一部実施も想定）
・本計画に基づき、関係者調整含めた精査や具体化検討を進め、段階的な実現をめざします。

【青井地区】これまでの地区別懇談会意見を踏まえた『復興まちづくりのイメージ（案）』について

～第４・５回懇談会の意見概要①～

黄色網掛け箇所が第 4･5 回地区別懇談会の参加者の主な意見です。(※決まった内容や事実確認をした内容ではありません)

青井地区は、中心地の一翼として、くらしの再建や避難対策とともに、青井阿蘇神社を中心とした歴史文化を活かした賑わい形成の方策を中心に検討を進めています。

■幅員が狭く車が離合できない。

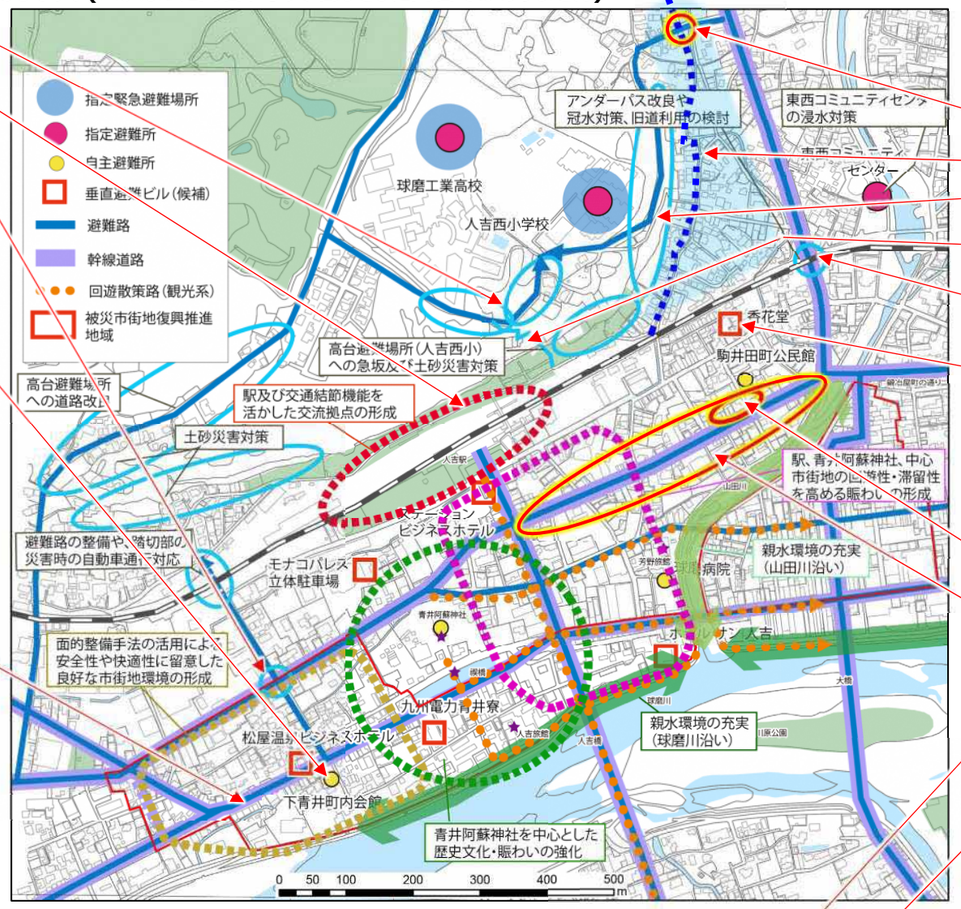
■駅周辺に観光（回遊）や避難に利用できる立体駐車場を。

■交通量が多く歩行者にとって危険、信号機があると良い。

■下青井町内会館再建について、市補助と県補助の重複利用ができないか。また、何かの機能を付け加えたりどれかの事業と組合せることで、補助が出て地元負担が少なくなるような支援方策があれば教えてほしい。
■地元(町内会)負担も少なく、避難所としての機能を持った会館を別場所で建てることができる区画整理以外の事業があれば、教えてほしい。

■解体が進んだ後の姿を実際に目で見てみないと、どういう感じなのかイメージできない。
■周辺が更地となり、ある程度の広さがあれば公園ぐらいできるかなと思えるかもしれないが、今の段階では考えられない。

■下青井町住民は、国道 445 号が狭いため拡幅を希望している。これまで大事故はないが、車の離合時は路側帯を使い、歩行者の肘や傘を引掛ける事が頻繁にある。是非拡幅し歩道も整備してほしい。
■門前町としての回遊やそぞろ歩きを考えると、門前町を形成する区間だけでも道路幅は広すぎない方が良い。
■蓮池周辺を門前町として考えると、禊橋を渡ろうとしても自動車がスピードを出してバンバン走ると、散策する楽しみに悪影響がある。
■歴史を大切にするのであれば、美しいモミジの木など切って拡幅することがないように。
■国道 445 号は以前からの都市計画決定のルートのままで良いのか。北側の下林柳瀬線が国道ではダメなのか。



■浸水しないか不安。

■御溝川が溢れ、浸水しやすい。

■土砂災害の危険性あり。

■最短距離で村山台地に上がれると良い。

■アンダーパスは浸水リスクを考えれば、早期に改善すべきではないか。

■香花堂に去年 120 人が避難したと聞いている。避難先ということを皆が認識したので、次にはもっと多くの人が集まるかもしれない。
■来訪者の避難場所をどうするか、住民と分ける必要があるのでは。
■市としては、一時避難場所の数を増やす方向である。
■町内で「自主避難所の覚書」を作成中。【駒井田町】
■各町内で、避難場所や避難に仕方など具体的に考えていく必要がある。そのための支援もお願いしたい。

■飲食店ができ始めている（寿司、イタリアンなど）。

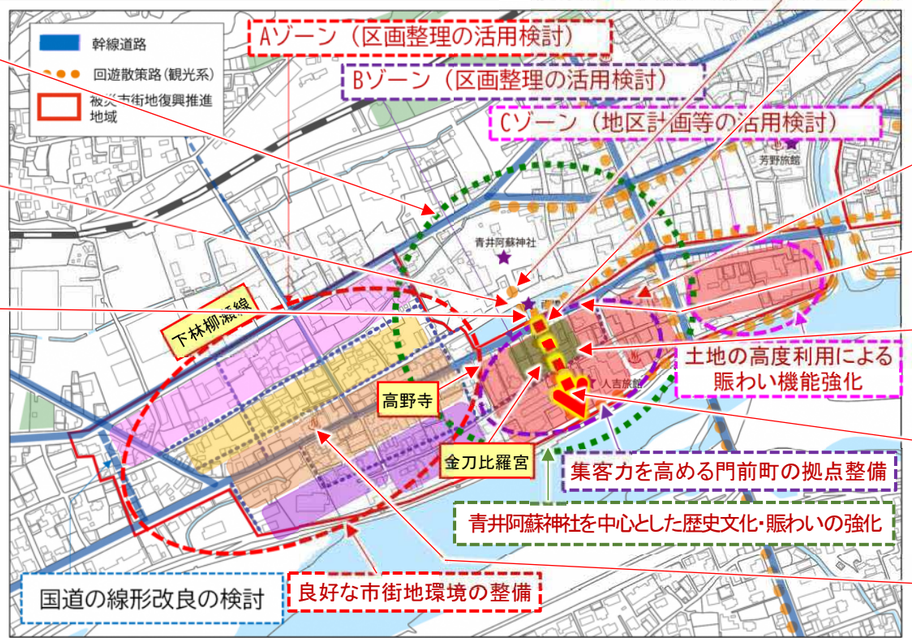
■街路樹の剪定等が行われておらず、廃れた印象がある。
■夜間は暗く、歩行に危険性があり、早めに整備すべき。

■青井阿蘇神社は人吉の宝。『青井の杜』ができれば、皆の憩いの場になる。杜はもっと広くても良い。
■人吉は『歴史回廊』。相良藩の歴史があるまち。神社を中心とした門前町。国宝の青井阿蘇神社～人吉城址を回遊できる。

■正月初詣、おくんち祭り(10 月)の時に参道を交通規制し、露店が出て歩行者に開放している。
■国道 445 号が広くなれば、週末等に周辺を開放し、『戸板市』のような催しがしやすくなる。風情があり、着の身着のままで来て楽しめるようになれば、地域住民も観光客の皆が楽しめる。

■禊橋が壊れたままである。禊橋は神社・地区・観光客にとっても象徴であり、観光名所でもあるので、官民が連携して早く復旧できないか。

■青井地区には子供が少ない。川の近くに子供が遊べる公園（芝生、滑り台等の遊具）があればと思う。ファミリー世代が住みたいと思うまちづくりを望む。
■椅子があれば高齢者も含めて腰かけて話ができる。憩いの場所になる。



商業・観光ゾーン（歴史文化・観光拠点に隣接する商業地として、生業再建と賑わい強化）
沿道商業ゾーン（幹線道路沿道の既存の商業・業務機能を維持）
生業・居住共存ゾーン（国道整備と併せ、日常生活サービス店舗（低層階）と都市型住居（マンション）を立地誘導）
居住ゾーン（低地から高台へ換地により戸建て住宅等の安全性を向上）
複合利用ゾーン（公共施設、ビジネス+インキュベータ支援施設、都市型住居など低層住居以外の複合機能を導入）

■青井阿蘇神社楼門前に、広めのスペースがあれば良い。見物客が集まる場所が少ない。参拝者も通りにくそうで、もったいない。

■国道 445 号沿いの労働金庫跡周辺は青井阿蘇神社や高野寺にも近く、イベント広場としてうってつけではないか。
■スペースがあれば色々なイベント（トラック朝市など）ができる。自由に使えるようであればうれしい。

■地区の歴史文化を踏まえ、神様の前のまち「門前町」のイメージで統一してはどうか。
■「人吉温泉女将の会」では、10 年以上前から浴衣での散策という発想があった。宿泊客に夕飯後（まだ少し明るく寝る時間ではないが、浴衣姿になっている）下駄を貸出し、“カランコロン”と市内や川沿いを散策してもらう。ただし、川べりを少し明るくする照明は必要。早めにチェックインして浴衣姿で別の銭湯へ行くような発想。

■青井阿蘇神社から球磨川が見えるよう、眺望を妨げない工夫が必要。高い建物は建てず、モゾカタウンのような店舗が並ぶ、良好な景観形成に留意した店舗や住居が望まれる。

■青井阿蘇神社駐車場から球磨川へのルートを考えると、例示以外の回遊散策ルートもある。人吉旅館表側の道も、散策路としての整備が有効である。散策路に資するものを加えることで、補助金や再建支援につながると良い。

■青井阿蘇神社から球磨川の眺め、川へのルートを明確にする。現状は迷う人が多い。
■きれいに整備し、ライトアップし、散策や川を眺められる場とする。滞留時間も長くゆっくりくつろげ、眺めが良く、せせらぎの音を聞き夕涼みできるようにするのが良いのではないか。。

■国道 445 号周辺の景観を壊さない所では、避難可能な高い建物がある町並みが良いのではないか。

青井地区　復興まちづくり計画（案）　【①方針・取組み】（1/3）

資料４

取組みの柱	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針）	具体の取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	**□住まいの再建と安全性の向上** ・国道445号の拡幅計画の内容、建築可能な建物、嵩上げ方向など、早く示してほしい。 ・再建支援の充実。（新しい規格での再建等の対象外への対応など） **□地域コミュニティの再生** ・町内活動の拠点である町内会館を早く復旧したい。 ・町内会館復旧には財源が厳しい。 ・町内の会合は修成館で行っているが瓦屋町との共同利用で町内会単独では自由に使えない。（城本町） ・世帯数の減少により、町内会の運営が懸念される。 ・小学生～高校生の人数が減っており、祭りの際は他町内から手伝いに来てもらっている。	**□安全な住まいの確保** ・治水対策や復興まちづくりの状況を踏まえ、安全な場所での再建や、安全性の向上を図る修復・再建方策等の選択肢を検討する。 ・再建する建物にも、住宅や商いなど色々あり、それぞれが醸し出すものがあり、各地区の特性を踏まえて検討する。 **□コミュニティの拠点の再生** ・町内会や地域コミュニティの活動を支える町内会館等の拠点施設の再建・修復等を行い、町内会を中心としたコミュニティの再生を図る。	**□安全性を高める建て方の誘導** ・建物１階のピロティ化、想定浸水深以上の居室の確保。 ・建物構造の耐水化。 ・宅地の盛土・嵩上げ。 ・共同化事業。（共同で浸水に強い高い階層のビル建築） ・区画整理等の面的整備手法の活用による高台への戸建て住宅等の換地や宅地嵩上げの検討。 （低地は、高い階層の共同住宅、非住居系建物、緑地等へ再配置を検討） **□災害公営住宅の導入検討** **□地域の集会所等の再建** ・町内会館の復旧と更なる支援検討。 （駒井田町会館は９月解体、翌年３月再建完成予定） （下青井町内会館における防災機能等強化の検討）
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	**□生業の再建と賑わいの再生** ・再建負担や後継者問題等により、上青井の商店再建は厳しい。 ・商店街の集約化で考えられないか。（なりわい補助金活用も） ・なりわい補助金は、テナントオーナーによる改修には適用されない。 **□観光資源の活用促進** ・人吉駅から駒井田周辺は観光のイメージがない。 ・観光資源:青井阿蘇神社、SL、映画撮影現場。	**□生業の再生に向けた環境づくり** ・まちなかの賑わいを高める魅力的な環境をつくる。 ・観光資源と連携した賑わい環境の充実と、観光のイメージづくり。	**□個々の事業所の再建支援** ・再建後の賑わい再生のためのビジョン・方針の共有化。 ・地域が連携し一体となった取組みと、店舗の再建支援。テナント再建支援の検討。 **□継続的な賑わい創出の取組** ・人吉ひかりの復興計画などとも連携した夜の散策ルートの整備。 **□公共交通を活かした人の滞留の促進** ・大村横穴群(古墳)付近の道路整備による大型バスへの対応。 ・人吉駅と産交バスの提携による高速バス停留所の設置。（そこから歩いて観光でき、県外からの観光促進になり、地元の人も駅経由で県外へ行ける） ・JR肥薩線の早期再開。
③災害に負けないまちづくり 【治水・土砂災害対策】 ※次のページへ続く	**□河川氾濫** ・普段は何も流れていない溝から水が溢れてきた。いつもと違った。 ・山田川から水があふれるとは思わなかった。水の出方が早く、国道が川になった。 ・山田川からの流水について、どのような対策ができるか。 ・支流（山田川、鬼木川）の堤防の決壊が懸念される。 ・もともと人吉の温泉街のまちは、６mの堤防高があれば水害は来ないというデータがあったが、まちの人が「川が見えないから」という理由で反対した。６mあれば、だいぶ助かったかもしれない。 ・球磨川の幅を拡げ、堆積土砂を取ることが必要。	**□本川・支川の水位の低下** ・広域的な流域治水プロジェクトとの連携。（治水対策は大学教授たちを信頼して頭脳集団にお任せする。） ・先人の智慧・治水対策の見直しと活用。水位の段階的な対策の検討。 ・まちの安全確保と水辺の景観に留意し堤防のあり方を検討。 **□小河川の氾濫の抑制** ・排水・浸透・貯留対策を進め、被害の軽減や避難時間の確保を図る。 **□急傾斜地周辺の安全確保** ・暮らしの安全や避難等の面で危険性の高い急傾斜地の安全を図る。	**□流域治水プロジェクトの推進** ・流域治水プロジェクト…流水型ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地や田んぼダム整備等。 ・景観に留意した堤防の検討。（江戸時代の石垣、城壁風など） ・支流の堤防の強化。（山田川、鬼木川） **□小河川の氾濫対策の推進・促進** ・放水路、浸透・雨水貯留施設等による内水対策。 ・御溝川の開渠（住民が氾濫状況を確認できる）、流水のコントロール。 ・蓋掛け側溝の堆積土砂の早期点検と撤去。（上・下青井町） **□急傾斜地対策**

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくり計画（素案）です。具体の取組み（案）は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。
※前回の意見等を踏まえた更新箇所

青井地区　復興まちづくり計画（案）　【①方針・取組み】（2/3）

取組みの柱	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針）	具体の取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	**□安全な避難ルートの確保** ・人吉西小への避難ルートは川・線路・崖に囲まれ、冠水しやすく問題が多い。 ・車でのスムーズな避難ができるよう国道445号の拡幅・改良等が必要。 ・南北方向の避難改善に向け、避難補助的な道路整備が必要。 ・球磨川の橋を渡って左岸へ逃げるのは危険。	**□安全な避難路の整備** ・浸水・土砂災害の危険性を踏まえ、避難場所までの避難路の整備を進める。 ・南北方向の避難路の充実を図る。 ・避難路の通常時の利用（通学路等）の安全性にも十分留意した整備方向を検討する。	**□地域の安全性の向上に資する道路の整備** ・安全で円滑な避難を可能とする避難経路・交通処理の多重化。 ・快適性にも留意した国道445号の整備。（拡幅・改良・再編等） ・避難場所（特に人吉西小学校、球磨工業高校）までの避難路の整備。 （車での移動に留意した拡幅整備、複数の避難ルート整備、車の離合対策、浸水対策、土砂災害対策など） ・南北方向の避難路の充実。 （村山公園への真っすぐな避難路の充実） （道路拡幅、排水対策、復興まちづくりと連携した新たな道路整備など） ・災害時に活躍する公共交通の体制構築。 ・子ども等の安全な通行に資する信号機や歩行スペースの確保。
	□避難施設の確保・改善 ・浸水しない避難場所の確保・改善が必要。 ・高い建物の避難場所としての活用による、垂直避難の強化。 ・車の避難場所が必要。 ・早い段階の避難であれば、校区外（北泉田方面）へ避難も有効。 ・避難場所に活用できそうな公園はない。 ・ペットの避難・受入れ体制の充実が必要。 ・避難ビル候補は実現性や民間意向を踏まえ精査が必要。	**□複数の避難場所の確保** ・指定緊急避難場所の他、一時避難可能な避難場所として、水害時の垂直避難に資する高い民間建物の利用や、高齢者等の一時参集（そこから車で移動）に資する公園の整備・確保など、まちなかに複数確保する。 ・避難後の不安を軽減するため、避難所の機能、環境、運営体制等を整える。 ・想定浸水レベルに応じ、方策を検討する。 ・観光客やペットの避難場所の確保を図る。	**□垂直避難や車移動に留意した避難場所の確保** ・避難所の建替や浸水対策。（東西コミセン、駒井田町公民館等） ・最寄りの垂直避難が可能な場所（避難ビル等）の確保。 （高層階のある立体駐車場・ホテル・マンション等への協力依頼、災害時の利用に関する協定の締結、避難ビル指定、利用ルールの検討） ・新たな建物整備における避難空間確保。（浸水深以上の高さに避難場所がある避難ビル機能を持った建物の整備や民間誘導、駅周辺への立体駐車場整備など） ・車を伴う避難は、村山台地（人吉西小学校、球磨工業高校等）を利用。 ・一時避難場所の拡充検討と自主避難所の覚書の締結。 ・ペットの避難の受入れ場所の確保とルールづくり。 ・観光客の避難場所の確保と受入れのルールづくり。
	□安全な避難の仕組みと体制の強化 ・いち早く避難する心がけと準備、情報発信が必要。 ・一人暮らしの高齢者は自動車を所有しておらず、避難できない。（下青井会館に集まり、そこから車で球磨工業高校へ避難するようにしていた） ・町内の90%が浸水被災する中での要支援者支援体制の充実が必要。 ・夜間の避難対策も必要。 ・避難のためのマニュアルやルールが必要。 ・今回５度目の水害で一番ひどかったが球磨川を恨んではいない。また来ても仕方がないと思っている。自宅ベランダに屋根に上るための階段を作っており、他所をあてにしないで垂直避難する。 ・これまでの被災や訓練経験を踏まえつつ、有効な取組みや実働的な訓練等に活かしていくことが必要。	**□適切な情報発信の実施** ・正しい情報を迅速に伝える。 **□自助共助の避難体制の構築** ・要支援者の避難支援体制を、地域ぐるみで構築するなど、町内の組織体制を強化する。 ・夜間にも留意した避難誘導等の対応策の検討を行う。 ・自宅内で垂直避難可能な取組み（屋根への階段設置など）を検討する。 ・市内の良い事例の共有化を進める。	**□防災情報の伝達機能強化** ・各世帯への戸別受信機の配布。（市より、6月から順次配布） **□自助共助の避難体制の構築** ・実際に起こり得る状況を想定した、地区単位での実働的な避難訓練の実施。 （消防団との連携、夜の時間帯の訓練、企業等の多くの参加促進など） ・普段からの避難の準備・備えの実施と、取組の共有化。 （昨年浸水した高さより高い位置への必要なものの保管など） ・自主防災組織（組織体制）の強化。 **□地域特性を踏まえたマイ・タイムライン、地区防災計画の作成** ・各町内での避難の仕方や連携体制についての確認や検討。 ・防災士や専門家等と連携した各地区の活動の支援の検討。 ・地区の災害リスクを踏まえ、時系列での防災行動計画を作成。 ・避難のタイミングを判断する地域独自の「きっかけ」の検討。 **□災害ゴミへの対応** ・災害後の災害ゴミ置き場の指定や、ゴミ置き場の管理体制の構築。

※次のページへ続く

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくり計画（素案）です。具体の取組み（案）は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

青井地区　復興まちづくり計画(案)　【①方針・取組み】（3/3）

取組みの柱	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針）	具体の取組み(案) ※実現化に向け、今後検討が必要
③災害に負けないまちづくり 【復興まちづくり】	**□留意すべき復興まちづくり上の課題** ・人口や観光客等が減少し、空き地・空き家が増大することによる、再建意欲や活力の低下が懸念。（地区の環境の悪化や経済活動等の衰退など） ・“戻ってきたい、行ってみたい、元気になってきた”と思えるよう、地域資源や特性を活かしつつ、地区の魅力や“らしさ”を高めるようなまちづくりの必要性。 ・住宅再建が大変で、公園整備にまでなかなか気が回らない。 **□インフラの課題** ・上青井地区の排水管が詰まり、交差点付近のトイレ等の水が蓮池に流れ込んでいる可能性。 ・将来を考えた場合、都市計画決定時の道路幅員14m の妥当性再検討の必要がある。明確な理由説明が求められる。ルートはそのままでよいのか、北側の下林柳瀬線が国道ではダメなのか。 **□地域特性を活かした復興まちづくり** ・青井地区（神社）の復興。 ・「人吉旅館」は文化財登録。ちゃんと後世まで守っていきたい。 ・青井地区は“観光”が第一では。以前の魅力以上にしないと観光客は帰ってこない。 ・青井阿蘇神社と駅の間、門前町として整備、街灯で街を明るく、球磨川遊歩道までともす。観光客が夜でも回遊できるように。駅や神社からの観光客の回遊性。 ・城址周辺を（大分県日田市）豆田地区みたいな雰囲気にしたい。高い建物はなるべく控えてもらい、古い街並みをつくりたい。 ・ＪＲ肥薩線の早期復旧が大切ではないか。 ・川とは共存関係。 ・東北の防潮堤のように高くはいらない。いいとは限らない。高くなると街の魅力がなくなる。 ・人吉には喫茶店が少ない。 ・今の堤防高は子どもの目線では川が見えない。	**□地区が一体となった復興まちづくり方針の共有化** ・市街地の空洞化を防ぎ、良好な市街地環境の形成と生活再建を進めるため、地域が一体となって連携して取り組む、将来ビジョンや土地利用のゾーニング等を検討し、将来方針を共有化する。 ・空き地等を活かしつつ、道路・公園等の都市基盤の充実と宅地利用の増進を図るため、面的整備手法や規制誘導手法等を検討する。 ・多様な主体（住民、事業者、関係人口ほか）の協働により、地域の元気を高めていく協働の取組みの活性化を図る。 **□地域特性を活かした魅力ある復興まちづくりの推進** ・観光・歴史文化拠点を形成する青井阿蘇神社周辺（人吉旅館を含む）において、周辺の門前町、球磨川の水辺、駅等とのネットワークに留意しつつ、まちなかの集客とコミュニティ強化につながる回遊軸と拠点の強化を図る。 ・良好な景観資源・眺望等を、次世代により良い形で引き継ぐ、街並み景観の維持・増進を図る。	**□青井地区のグランドデザインの作成** ・住民・事業者等、まちの関係者が共有のビジョンを作成し、中心市街地、麓町・老神地区含むまちなか全体の活性化にもつながるよう、相互に連携しつつ、多様な主体の活躍により復興まちづくりを進める。 **□安全で快適な市街地環境形成** ・宅地利用の増進や快適な市街地環境形成に資する道路・公園等の基盤整備の検討。 ・避難路、避難場所等の整備や、一部嵩上げ等の安全確保に資する整備検討。 ・国道445号の整備と連携した沿道市街地の誘導。（1階は店舗、2階以上は住宅など） ・下林柳瀬線を主要幹線道路に位置づけ、国道445 号は青井神社周辺の賑わい形成に資する幹線道路として機能強化の方向を検討。 （歩きたくなる歩行空間の充実、禊橋周辺など門前町としての賑わい低下につながらないような広幅員すぎない道路と自動車交通量やスピードの抑制、沿道の歴史文化資源を阻害しない道路区域、緊急輸送路として車が離合可能な車道の確保、沿道商業施設への配慮など） ・良好なまちなみ景観形成や、安全性や集客性に留意した建築活動等を実現する規制誘導手法の適用を検討。 ・空き地等の活用や土地の高度利用による、共同住宅、共同店舗、立体駐車場等（一部避難ビルを兼ねる）の整備検討と、官民連携事業の推進検討。（民活手法や公共施設等の複合化など） ・高齢者がまちブラ出来るような、町内の駐車場・公園の整備。 ・まちの中で市民が滞留できるような道路の整備。（車道の一部を狭くする） ・拡幅した道路を平常時交通規制し賑わいを創出。 ・空き地等を活かした公園や子供の遊び場の整備。 （辻病院跡地活用、アムステルダムのような住宅裏側への共有広場整備など） ・街路樹を含めた町内の緑化。 **□青井阿蘇神社を核とした賑わい拠点と回遊性の強化** ・青井阿蘇神社周辺の文化財等の復旧の支援。 ・景観計画に基づく良好な景観形成の規制誘導。青井神社から球磨川方向への眺望、人吉橋から神社の森への眺望の確保。（新たな建物の高さ規制含む） ・蓮池や文化財等を含めた、一体的な賑わい空間の創出と回遊環境の魅力強化、交流拠点施設の検討。 ・青井神社周辺での公園・広場等の環境整備。（『球磨絵図』を活かした魅力ある環境づくり） （青井の杜と呼べるような、緑豊かな環境づくりを、青井神社周辺に拡げていく） ・青井神社と周辺の文化財や球磨川を結ぶ空間の門前町としての整備と雰囲気づくり。 ・観光客が宿泊地を起点にまち歩きを楽しめる環境づくりや写真映えする演出。 （着物・浴衣・下駄利用や、水辺のライトアップなど含む） ・駅周辺の鉄道を核としたまちづくり拠点の形成。 ・新規出店希望者への空き地・空き店舗の情報共有・発信と誘致促進。 ・まちなか駐車場の強化。（公共駐車場の導入含む） ・サイクリングロードの整備検討。 ・拠点間を散策可能な回遊軸の充実。 （中心市街地や人吉城址との連携強化により青井地区全体が賑わうようなまちづくり） **□面的まちづくり手法の活用検討** ・安全で快適な市街地環境形成等に資する面的まちづくり手法（区画整理等）の活用検討。 （空き地が多く、接道不良地区等で有効） ・町内の高台へ換地し住まいの安全性を高めるような区画整理等の検討。 **□球磨川を活かしたまちづくり** ・水辺を活かした空間づくり。水辺の景観を楽しめる環境づくり。

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくり計画（素案）です。具体の取組み（案）は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

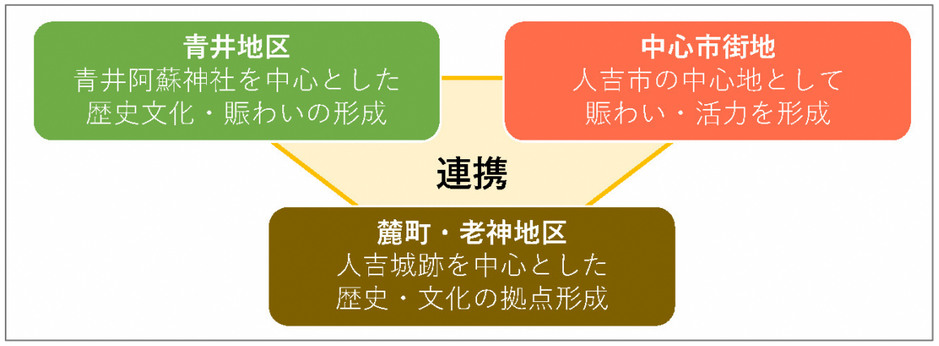
青井地区　復興まちづくり計画（案）　【 ②地区の将来像】

まちなか全体の将来方向　（人吉市まちなかグランドデザインの方向）

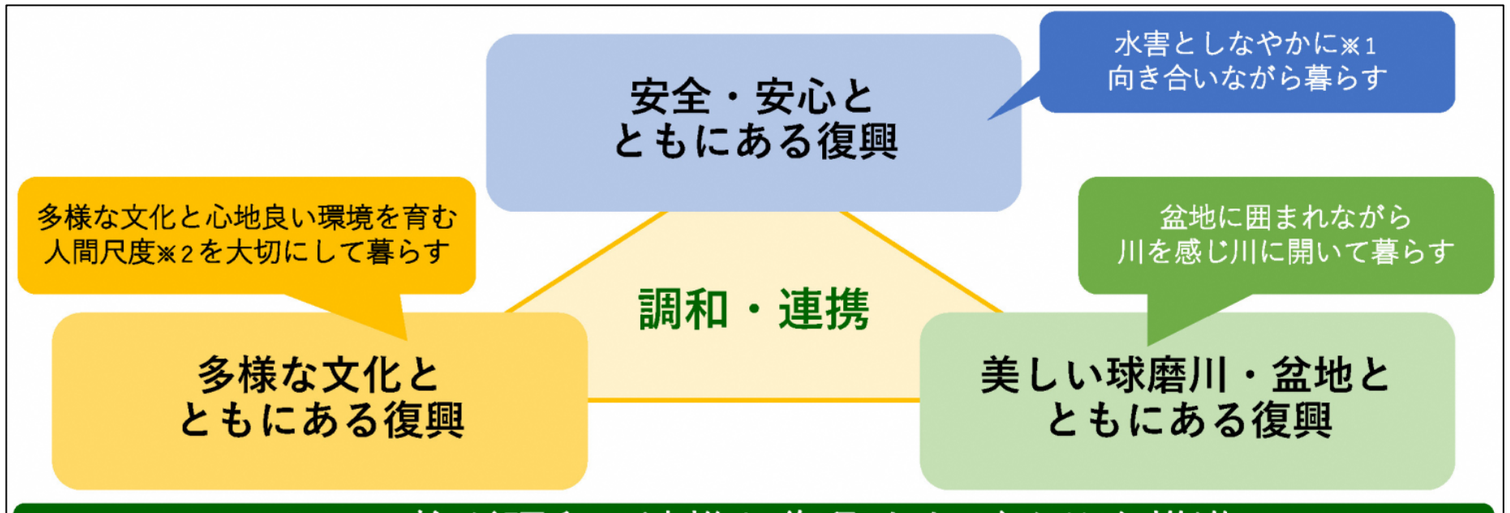
〇中心市街地、青井地区、麓・老神地区は、人吉市の中心地（まちなか）を形成しており、特色ある歴史文化資源等を有しています。

〇人吉の大きな魅力である相良700年の歴史とともに育んできた『**多様な文化**』や、『**美しい球磨川・盆地**』の豊かな自然を活かしつつ、来訪者含めた賑わい形成や、水害を乗り越え『**安全・安心**』な暮らし方につなげていくような、『**持続可能な地域づくり**』に取り組んでいきます。

〇各地区の特性を最大限に活かしつつ、**人吉らしさや賑わいを発信する集客拠点『３つの杜』の形成と回遊促進**を図り、**連携して中心地全体の活性化につながるような復興まちづくりを推進**していきます。



未来型復興を先導する３つの杜エリア
- **〇古代中世の杜（青井神社周辺）**
- **〇中世近世の杜（城址公園周辺）**
- **〇復興未来の杜（紺屋町、九日町等周辺）**



３つの柱が調和・連携し復興まちづくりを推進

多様な文化とともに歩んできた相良700年の歴史ある人吉に最大限の敬意を払い水害を乗り越え、美しい球磨川とともにある『持続可能な地域づくり』に取り組む

※１将来の起こるかもしれない水害等の自然災害に対し、事前に備え柔軟に対応するという意味を込めて「しなやかに」という言葉を用いています。

※２歩きやすい道幅や圧迫感のない建物の高さなどに配慮された町に、人は心地よさを感じます。城下町の歴史がある人吉市の中心部においてもこのような「人間が心地よさを感じる尺度」は大切にしたいと考えます。

青井地区の将来像（復興まちづくりの目標）

青井阿蘇神社を中心とした歴史文化・賑わいの形成

〇青井阿蘇神社を核として
　多彩な歴史文化・自然を楽しめる賑わいあるまちづくり

〇暮らしの安心やコミュニティを協働で育むまちづくり

〇まちなかの利便性を活かし、快適な市街地環境を育むまちづくり

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、地区の将来像（案）と人吉市まちなかグランドデザイン（案）です。決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

※前回の意見等を踏まえた更新箇所

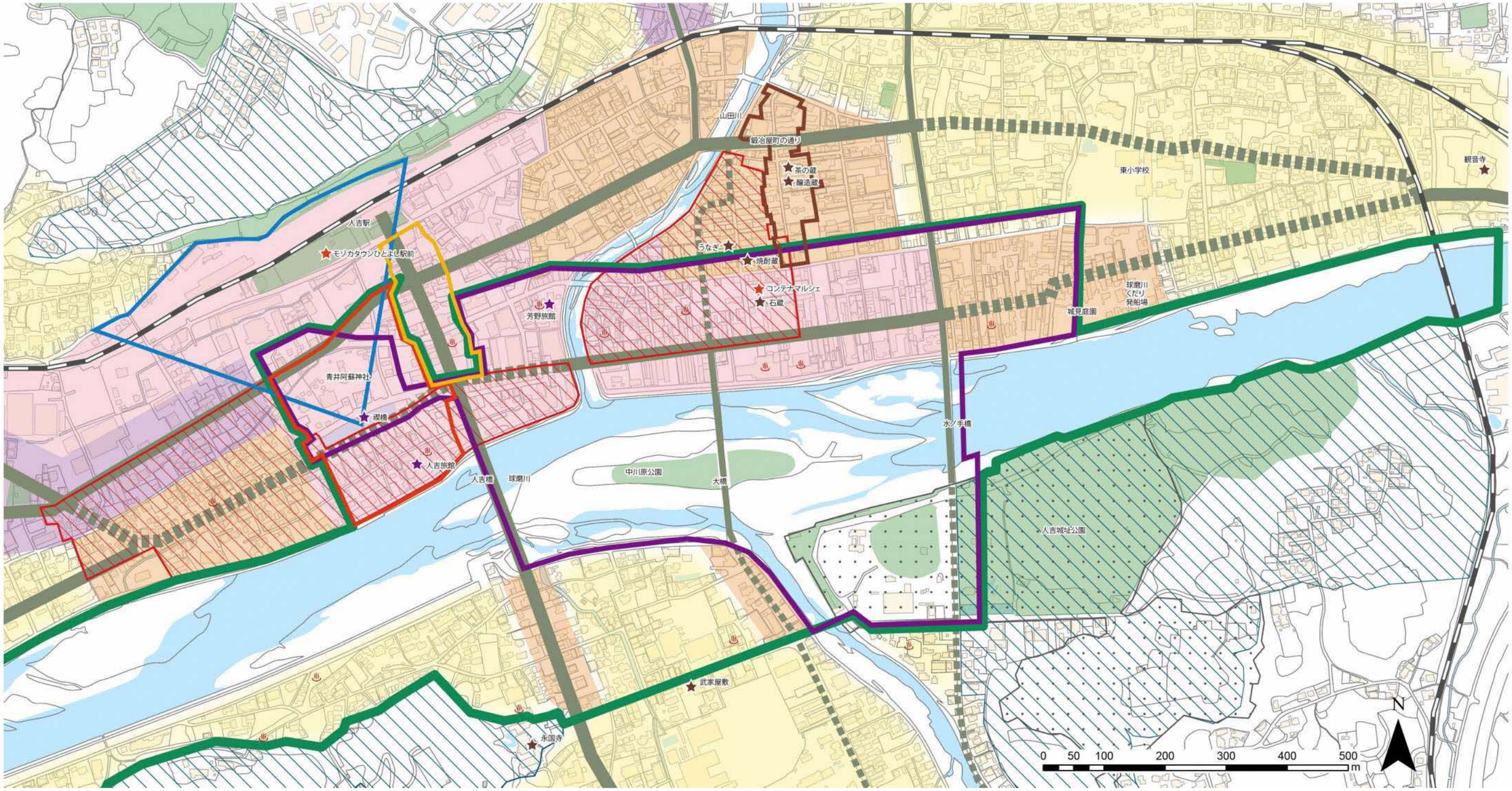
人吉市のまちなか全体のグランドデザインの方向・イメージ（案）　＜土地利用・景観＞

人吉市まちなかグランドデザイン　①都市構造・土地利用・景観形成の方針（案）

（凡例）

※提案事項
- 商業・観光ゾーン（賑わいや交流を促進する土地利用を図る）
- 沿道商業ゾーン（沿道型の商業地形成を促進する）
- 生業・居住共存ゾーン（生業を営みながらまちなか暮らしを促進する）
- 居住ゾーン（まちなかに近い利便性を活かした居住地形成を図る）
- 被災市街地復興推進地域

- 球磨川河畔景観形成地域
- 青井阿蘇神社周辺重点地区
- 青井阿蘇神社眺望保全地区
- おくんち祭り伝統継承地区
- 鍛冶屋町通り街なみ環境整備事業地区
- 風致地区
- 人吉駅前地区 地区計画
- 史跡人吉城跡
- 公園・緑地
- 主要幹線道路
- 主要幹線道路（計画）
- 幹線道路
- 幹線道路（計画）
- 登録文化財
- 歴史的建物等
- 仮設店舗等
- 温泉・公衆浴場



※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、人吉市まちなかグランドデザイン（案）です。決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

人吉市のまちなか全体のグランドデザインの方向・イメージ（案）　＜防災・安全性向上＞

人吉市まちなかグランドデザイン　②防災・安全性向上の方針（案）

（凡例）

※提案事項

避難路・垂直避難ビル（候補）等
- 避難路
- 垂直避難ビル（候補）
- 被災市街地復興推進地域

※避難ビルは地区別懇談会意見に基づく候補案であり、今後施設内容や所有者意向等を踏まえつつ候補施設の精査や拡大（新たに整備予定の建物含む）に向けた検討・調整を進めていきます。

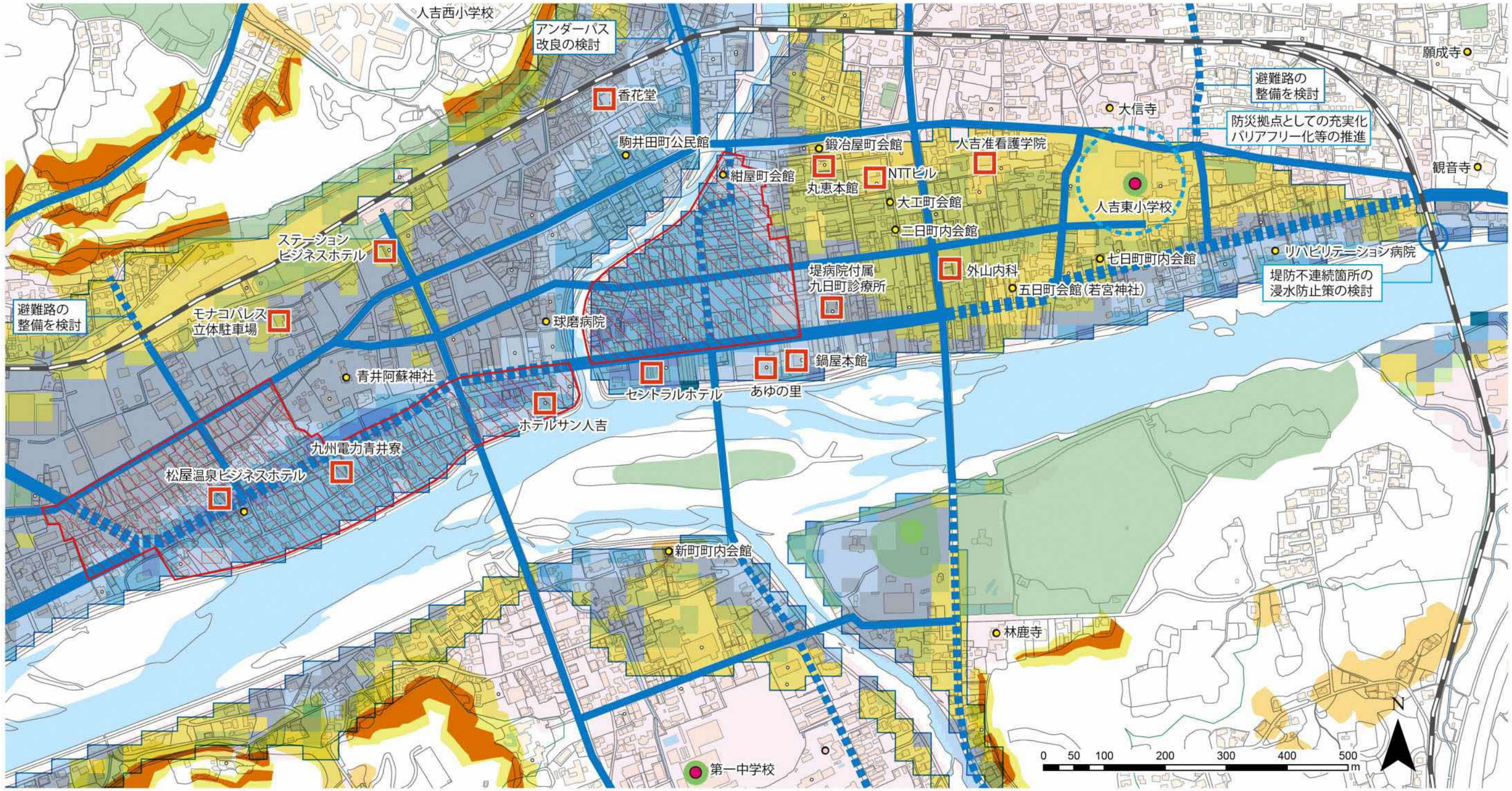
避難場所・避難所
- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 自主避難所
- 福祉避難所

土砂災害の危険区域
- 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）
- 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
- 急傾斜地調査予定

※避難場所・避難所の情報は被災前のものであるため自主避難場所は今後、見直される可能性があります。

R２年７月豪雨　実績浸水深
- 浸水区域
- 0.5m未満の区域
- 0.5m以上 ～ 1.0m未満
- 1.0m以上 ～ 2.0m未満
- 2.0m以上 ～ 3.0m未満
- 3.0m以上 ～ 4.0m未満
- 4.0m以上 ～ 5.0m未満
- 5.0m以上 ～ 6.0m未満

浸水想定区域
- 想定最大規模（L2）



※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、人吉市まちなかグランドデザイン（案）です。決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

人吉市のまちなか全体のグランドデザインの方向・イメージ（案）　＜賑わい・歴史・文化＞

人吉市まちなかグランドデザイン　③歴史・文化・賑わい形成の方針（案）

（凡例）

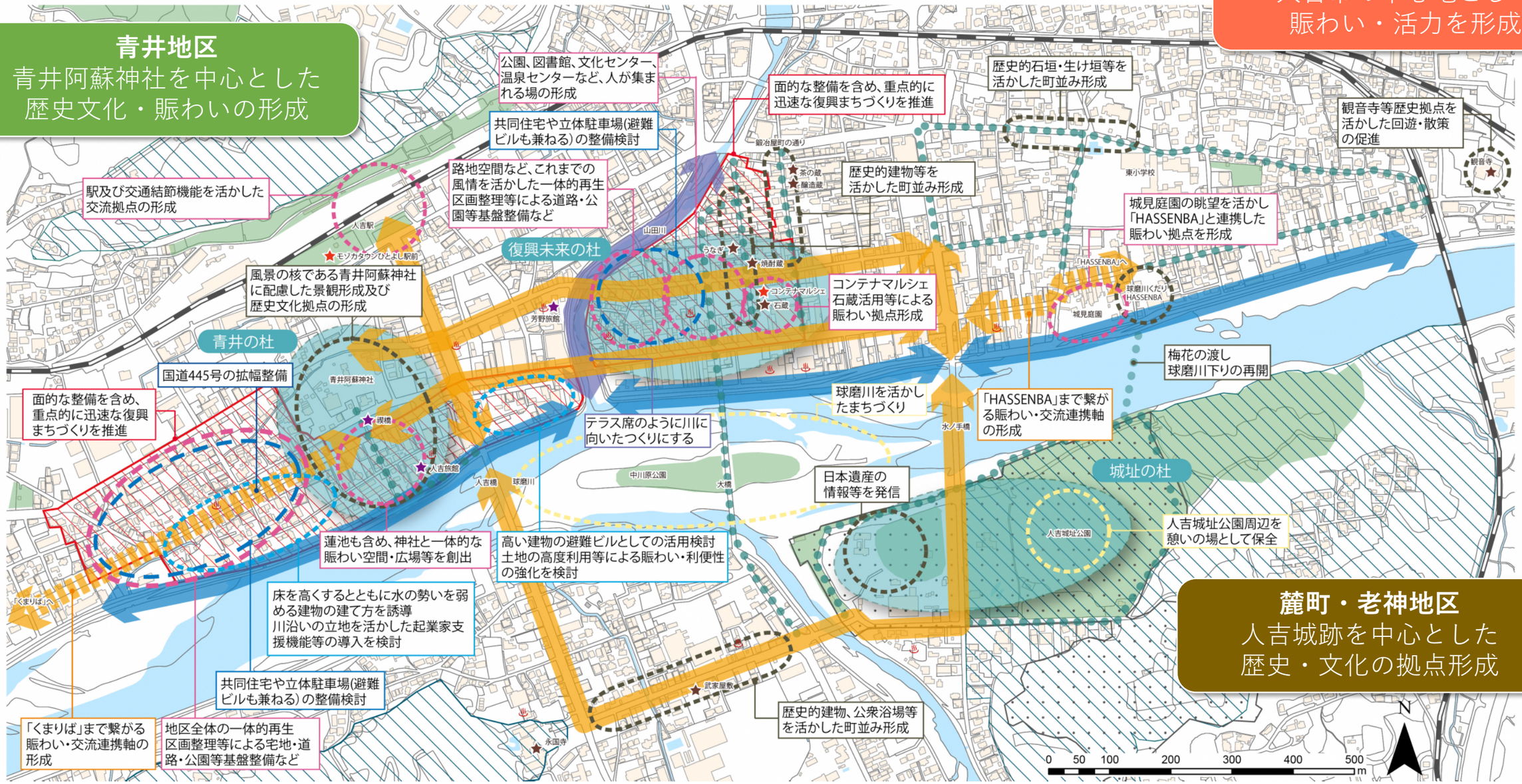
※提案事項

- 人吉の歴史を語り継ぎ明るい未来を創る３つの杜
  ※青井の杜（古代中世）、城址の杜（中世近世）、復興未来の杜（現在から未来）
- 賑わい・交流軸（３つの杜を連携し、賑わい・交流を促進する軸を形成する）
- 賑わい・交流連携軸（３つの杜周辺の重要な拠点と連携し、賑わい・交流軸を形成する）
- 球磨川プロムナード軸（球磨川の魅力を活かした親水空間の形成を図る）
- 山田川親水軸（山田川の魅力を活かした親水空間の形成を図る）
- 回遊散策路（人吉の魅力を楽しめる散策コースの形成を図る）
  ※賑わい・交流軸、賑わい・交流連携軸、球磨川プロムナード軸、山田川親水軸は機能として回遊散策路を兼ねる
- 賑わい・交流拠点（人が集い賑わう交流拠点を形成する）
- 歴史・文化拠点（歴史・文化資源を活かした拠点形成を図る）
- 潤い・憩い拠点（自然環境等を活かし潤いを感じ憩える拠点形成を図る）
- まちなか居住・避難拠点（避難場所も兼ねたまちなか居住の拠点形成を図る）
- 創造・交流拠点（川沿いの環境を活かした創造・交流を促進する拠点形成を図る）
- 被災市街地復興推進地域
- 風致地区
- 公園・緑地
- 史跡人吉城跡
- 登録文化財
- 歴史的建物等
- 仮設店舗等
- 温泉・公衆浴場

中心市街地
人吉市の中心地として
賑わい・活力を形成

青井地区
青井阿蘇神社を中心とした
歴史文化・賑わいの形成

麓町・老神地区
人吉城跡を中心とした
歴史・文化の拠点形成



※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、人吉市まちなかグランドデザイン（案）です。決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

青井地区　復興まちづくり計画（案）　【③復興まちづくりのイメージ】＜避難対策＞

自動車が離合可能なスペースの確保

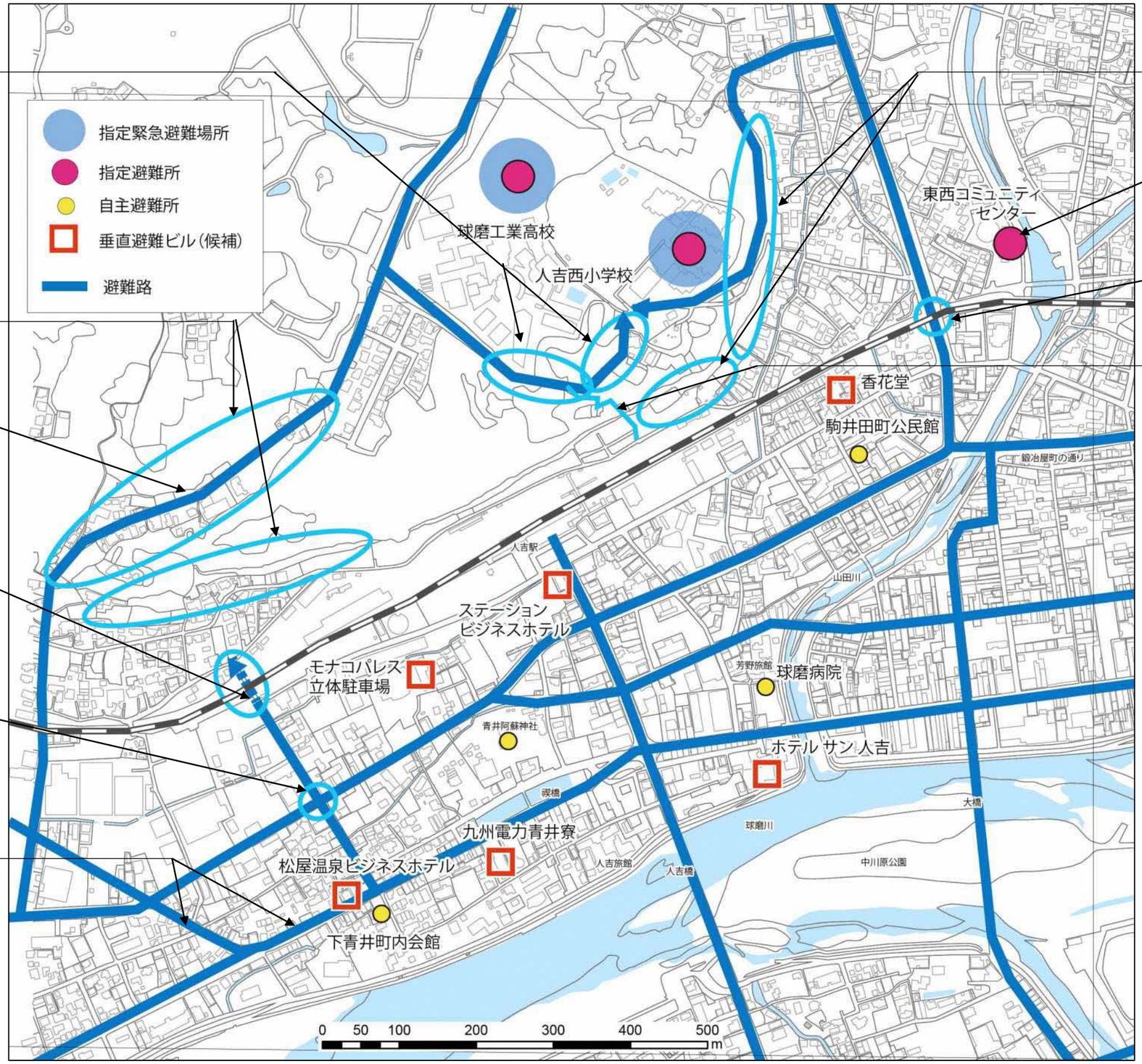
土砂災害対策

高台避難場所への道路改良

避難路の整備や、踏切部の災害時の自動車通行対応の検討

信号機の設置検討

国道445号の整備（安全性・快適性に留意した拡幅・改良・空間再編等の検討）



土砂災害対策

東西コミュニティセンターの浸水対策

アンダーパス改良や冠水対策、旧道利用の検討

高台避難場所（人吉西小）への急坂及び土砂災害対策

＜各種避難所・場所＞

被災した避難所の復旧

一時避難場所の拡充検討

□ 垂直避難ビル（候補）

高層階のある立体駐車場、ホテル、マンション等への協力依頼、
災害時の利用に関する協定の締結、避難ビル指定、
利用ルールの検討

新たな建物整備での避難ビル化の検討

※避難ビルは地区別懇談会意見に基づく候補案であり、今後施設内容や所有者意向等を踏まえつつ、候補施設の精査や拡大（新たに整備予定の建物含む）に向けた検討・調整を進めていきます。

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくりのイメージ（案）です。
　具体の取組み内容は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

※前回の意見等を踏まえた更新箇所

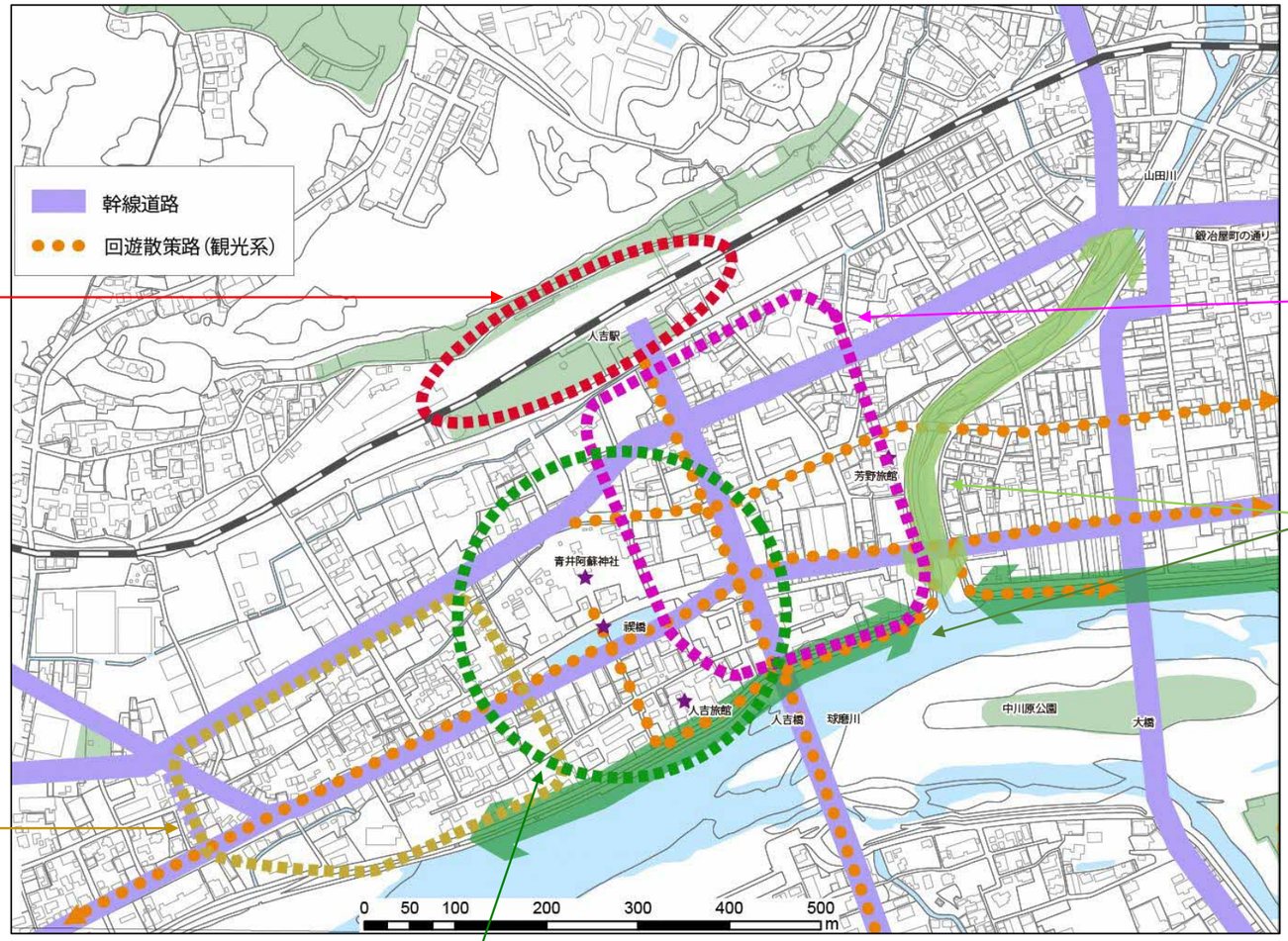
青井地区　復興まちづくり計画（案）　【③復興まちづくりのイメージ】＜再建・復興まちづくり＞

駅及び交通結節機能を活かした交流拠点の形成

- JR肥薩線の早期再開
- 高速バス停留所の設置
- 駅周辺への立体駐車場の整備（垂直避難場所）
- 広域玄関口としての歴史性や周辺の公園等を活かした交流環境の充実

安全性や快適性に留意した良好な市街地環境の形成

- 国道445号の歩行空間等の充実
- 避難路・避難場所の充実につながる道路・公園等の整備
- 計画的な市街地誘導と併せたまちなみ景観の向上
- 国道沿いへの店舗等の日常生活利便施設の誘導
- 面的整備手法（区画整理等）を活かした接道環境改善と宅地利用の増進



駅、青井阿蘇神社、中心市街地の回遊性・滞留性を高める賑わいの形成

- 人吉駅停車場線沿道周辺の賑わい機能の強化（商業・観光関連施設の立地誘導、起業家活動の活性化）
- 主な回遊軸（回遊散策路）の街並み景観の魅力強化（歩きたくなる景観の演出、景観計画に基づく良質な景観誘導の強化）

親水環境の充実

- 球磨川沿いや山田川沿いは、水辺の魅力を活かし親水空間と散策回遊環境を充実

青井阿蘇神社を中心とした歴史文化・賑わいの強化

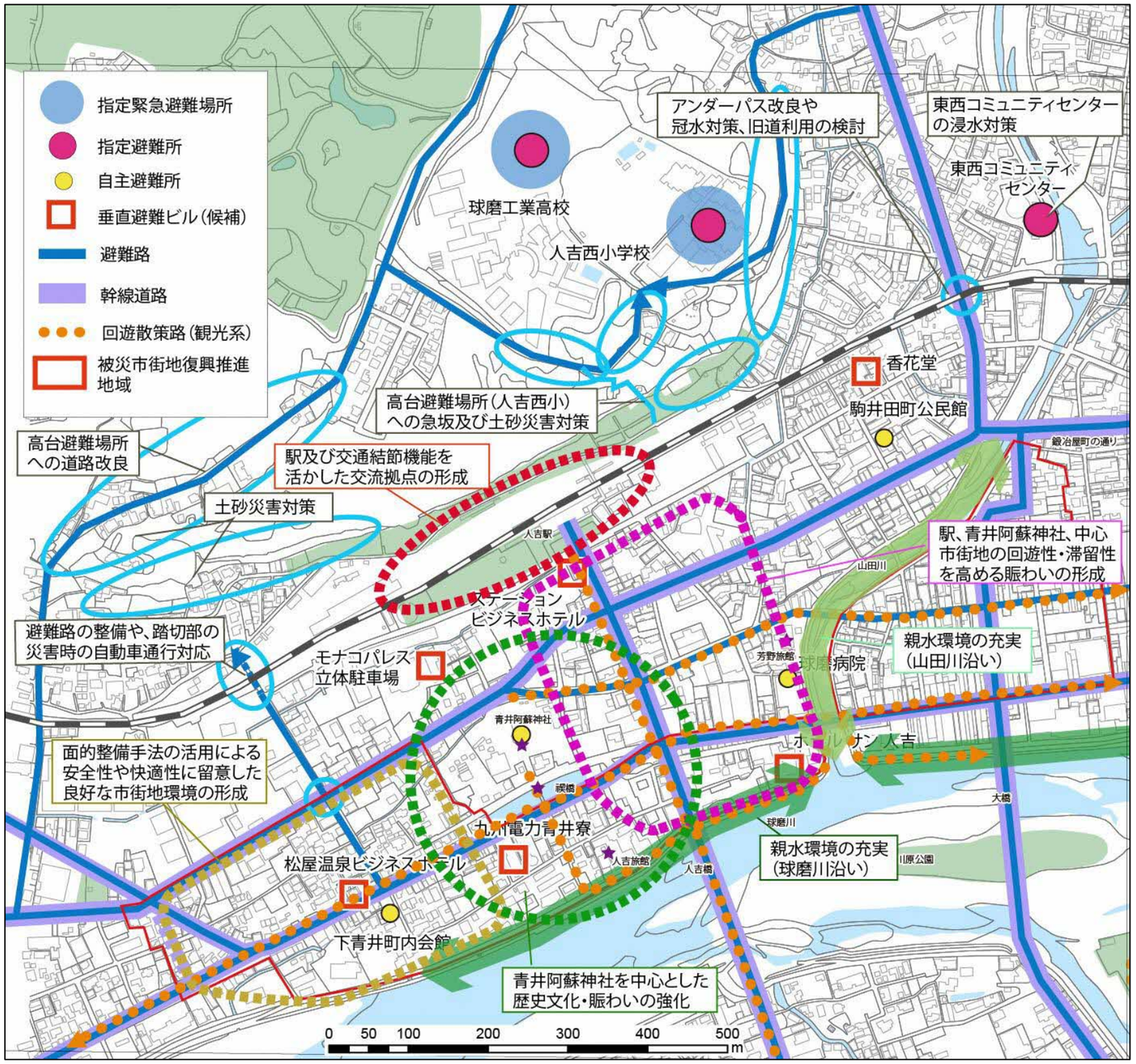
- 蓮池や文化財を活かした“神社と一体的なやすらぎと賑わいの拠点『青井の杜』の創出
- 門前町らしい歴史性を感じられる公園・広場整備と、　『球磨絵図』など歴史性の発信
- 周辺の文化財等を活かした門前町らしい環境づくり
- 観光物産・歴史文化発信・観光交流体験等の拠点機能の強化
- 地域住民の日常的な交流・コミュニティの場づくり
- 球磨川とつながる参道整備と、まちなかを歩きたくなる回遊散策路の充実
  （中心市街地や人吉城址を結ぶ多様な魅力ある回遊軸の形成）

まちなかの賑わいを高める環境づくり

- 人吉ひかりの復興計画と連携した夜間景観を楽しむエリアの拡大
- 様々な観光客の主客に資する交通環境の充実（集客拠点周辺の駐車機能強化、観光バス対応、サイクリング対応、新たなモビリィティ・乗り物への対応）
- 低地での土地利用活性化や中心市街地全体の中での賑わい機能の共存に留意した多様な機能の導入検討（業務系など）
- まちなかの空き家・空き地等を活用した定住環境の魅力向上（交流や憩いの場、公園・緑地など）

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくりのイメージ（案）です。具体の取組み内容は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

青井地区　復興まちづくり計画（案）　【②地区の将来像、③復興まちづくりのイメージ】



青井地区の将来像（復興まちづくりの目標）

青井阿蘇神社を中心とした歴史文化・賑わいの形成

〇青井阿蘇神社を核として
　多彩な歴史文化・自然を楽しめる賑わいあるまちづくり
〇暮らしの安心やコミュニティを協働で育むまちづくり
〇まちなかの利便性を活かし、快適な市街地環境を育むまちづくり

復興まちづくり

駅及び交通結節機能を活かした交流拠点の形成

・JR肥薩線の早期再開
・高速バス停留所の設置
・駅周辺への立体駐車場の整備（垂直避難場所）
・広域玄関口としての歴史性や周辺の公園等を活かした交流環境の充実

駅、青井阿蘇神社、中心市街地の回遊性・滞留性を高める賑わいの形成

・人吉駅停車場線沿道周辺の賑わい機能の強化（商業・観光関連施設の立地誘導、起業家活動の活性化）
・主な回遊軸（回遊散策路）の街並み景観の魅力強化（歩きたくなる景観の演出、景観計画に基づく良質な景観誘導の強化）

青井阿蘇神社を中心とした歴史文化・賑わいの強化

・蓮池や文化財を活かした“神社と一体的なやすらぎと賑わいの拠点『青井の杜』の創出
・門前町らしい歴史性を感じられる公園・広場整備と、 『球磨絵図』など歴史性の発信
・周辺の文化財等を活かした門前町らしい環境づくり
・観光物産・歴史文化発信・観光交流体験等の拠点機能の強化
・地域住民の日常的な交流・コミュニティの場づくり
・球磨川とつながる参道整備と、まちなかを歩きたくなる回遊散策路の充実
（中心市街地や人吉城址を結ぶ多様な魅力ある回遊軸の形成）

安全性や快適性に留意した良好な市街地環境の形成

・国道445号の歩行空間等の充実（線形改良の検討含む）
・避難路・避難場所の充実につながる道路・公園等の整備
・計画的な市街地誘導とまちなみ景観の向上
・国道沿いへの店舗等の日常生活利便施設の誘導

親水環境の充実

・球磨川沿いや山田川沿いは、水辺の魅力を活かし親水空間と散策回遊環境を充実

まちなかの賑わいを高める環境づくり

・人吉ひかりの復興計画と連携した夜間景観を楽しむエリアの拡大
・様々な観光客の集客に資する交通環境の充実
・低地での土地利用活性化や中心市街地全体の中での賑わい機能の共存に留意した多様な機能の導入検討（業務系など）
・まちなかの空き家・空き地等を活用した定住環境の魅力向上（交流や憩いの場、公園・緑地など）

避難対策

垂直避難可能な避難ビルの確保

・高層階のある立体駐車場・ホテル・マンション等への協力依頼
・災害時利用の協定の締結、避難ビル指定、利用ルールの検討
・新たな建物整備での避難ビル化の検討

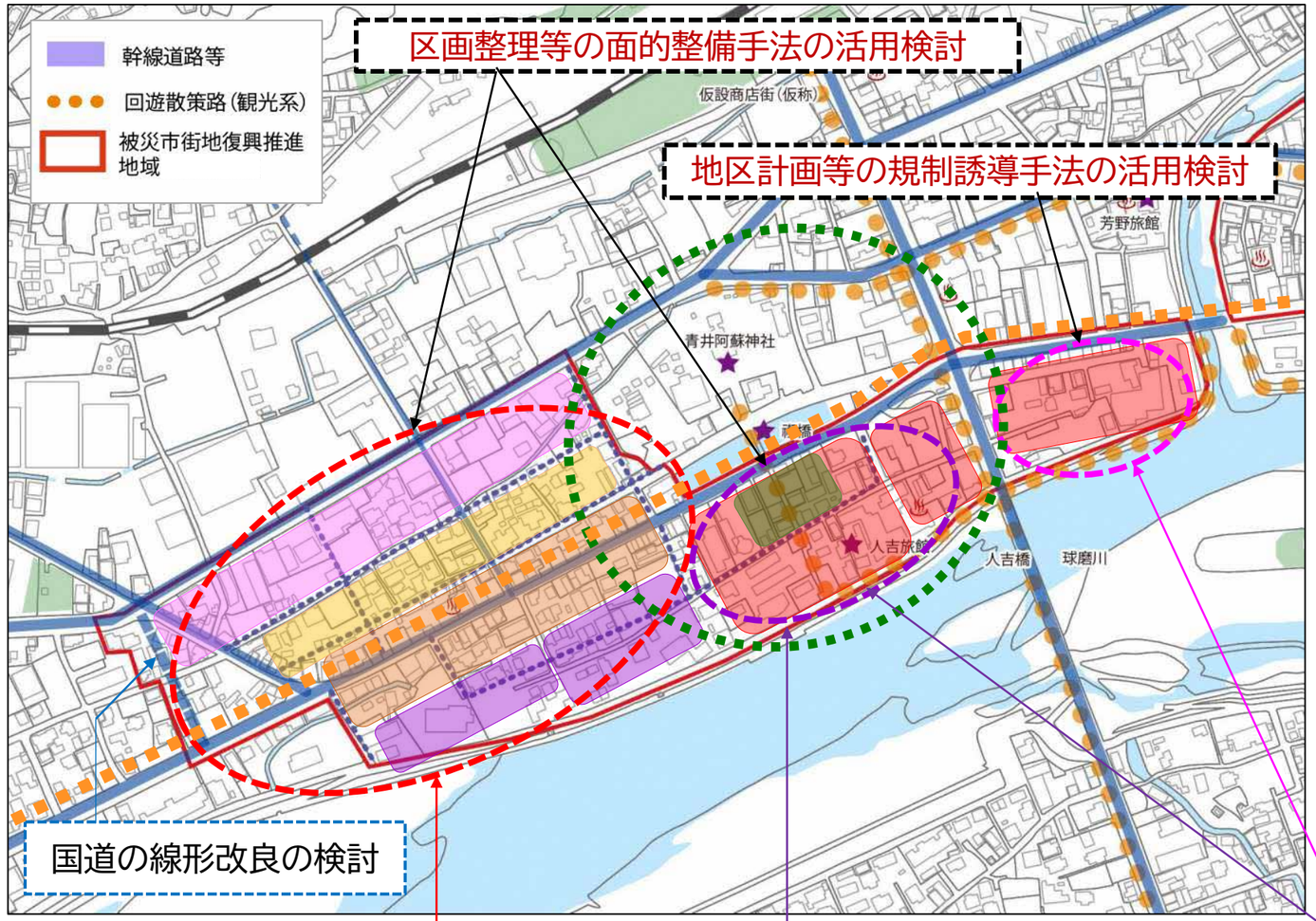
※避難ビルは地区別懇談会意見に基づく候補案であり、今後施設内容や所有者意向等を踏まえつつ、候補施設の精査や拡大（新たに整備予定の建物含む）に向けた検討・調整を進めていきます。

様々な避難対策

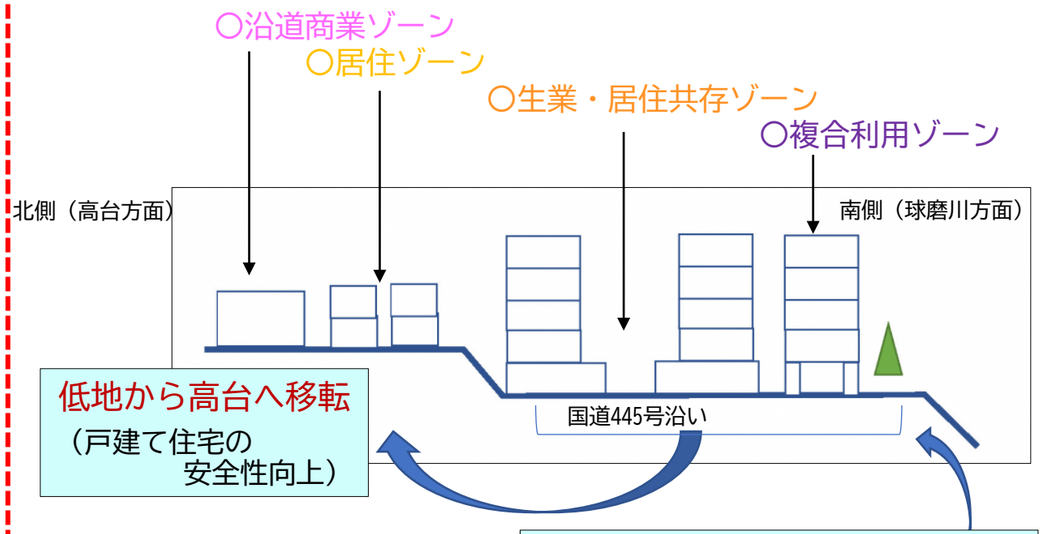
・被災した避難所の建替や浸水対策
・一時避難場所の拡充検討と自主避難所の覚書締結
・避難所への避難路の確保
・防災情報の伝達機能強化
・自助共助の避難体制の構築
・地域特性を踏まえた地区防災計画の作成

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくり計画（案）です。具体の取組み（案）は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

青井地区　復興まちづくり計画（案）　【③復興まちづくりのイメージ】＜面的整備手法の活用イメージ＞



区画整理等の面的整備手法を活用した整備の断面イメージ



低地から高台へ移転
（戸建て住宅の安全性向上）

球磨川沿いの低地での安全対策
- 高い階層の建物整備
- 低層階への非住居立地
- 公共施設・業務施設等の立地誘導
- 水辺の樹林地整備
（緑の防波堤、森の防波堤）等

良好な市街地環境の整備
- 避難路・避難場所となる道路・公園整備
- 高齢者の居場所づくり、多世代交流等に留意した公園づくり
- 個性ある景観形成や緑化の促進
- 幹線道路沿いへの店舗等の日常生活利便施設の立地誘導

集客力を高める門前町の拠点整備
- 門前町らしい歴史性を感じられ交流イベント等も可能な公園・広場の整備
- 観光物産・歴史文化発信・観光交流体験等の拠点機能強化
- 周辺の文化財や水辺等と連携した門前町らしいまち並みと散策環境づくり（ゾーン内散策環境の充実）
- 交通結節機能の整備（高速バス停留所、観光バス・一般駐車場、サイクリングや新たなモビリティ等の乗継ぎ拠点）

青井阿蘇神社周辺から球磨川への眺望確保
- 国道445号沿いでの高い建物の立地規制
- 周辺の歴史文化景観等と調和した良好な街並み景観形成の誘導
- 禊橋～金刀比羅宮～球磨川を結ぶ参道の整備、など

土地の高度利用による都市機能強化
- 土地の高度利用等による賑わい・利便性の強化（観光・交流・商業・各種サービス・駐車場など）
- 高い建物の避難ビル活用
- 官民連携事業の検討

その他の安全対策（区域全体）
- 浸水に強い建物の誘導
（建物１階のピロティ化、想定浸水深以上の居室の確保）
（建物構造の耐水化、宅地の盛土・嵩上げ）
- 建物の共同化・高度化
- グリーンインフラ（雨水浸透型緑地帯など）の導入
- 雨水貯留施設、調整池、透水性舗装等の導入、など

- 商業・観光ゾーン（歴史文化・観光拠点に隣接する商業地として、生業再建と賑わい強化）
- 沿道商業ゾーン（幹線道路沿道の既存の商業・業務機能を維持）
- 生業・居住共存ゾーン（国道整備と併せ、日常生活サービス店舗（低層階）と都市型住居（マンション）を立地誘導）
- 居住ゾーン（低地から高台へ換地により戸建て住宅等の安全性を向上）
- 複合利用ゾーン（公共施設、ビジネス＋インキュベータ支援施設、都市型住居など低層住居以外の複合機能を導入）

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくりのイメージ（案）です。具体の取組み内容は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。
※前回の意見等を踏まえた更新箇所

【④被災市街地復興推進地域（青井地区）の土地利用計画（たたき台）】　＜課題地区＞

凡例
- 被災市街地復興推進地域
- 大字界
- 都市計画道路

道路幅員
- 1　15m以上
- 2　6m以上　15m未満
- 3　4m以上　6m未満
- 4　4m未満
- 都市公園

PRJ_CODE
- 0不明
- 1未改良区間
- 2概成済区間
- 4改良済（S55以前）
- 5改良済（S55～59）
- 6改良済（S60～H2）
- 7改良済（H3～7）
- 9改良済（H13～17）
- C0501都市施設_その他
- 道路用地

建物
- 建物

■再建に際して課題が想定される地区

都市計画道路（国道445号未改良区間）の整備に際して、沿道拡幅が必要な敷地が生じるため、沿道地権者の現地再建意向を踏まえつつ、良好な沿道市街地の整備を進めていく必要がある

再建に際して、接道上の課題が想定される敷地
（未接道敷地＋4m未満の細街路に接道する敷地）
が多い地区であり、道路整備による宅地利用の増進が望まれる

青井阿蘇神社周辺の門前町としての魅力ある環境整備に際して、神社と球磨川を結ぶ参道の整備と併せて賑わい形成に資する公園・広場や拠点施設の整備が望まれる

左記課題解決に有効な面的整備手法と適用区域について、地権者意向等を踏まえつつ、具体化検討していく必要がある

幅員4m以上の道路がなく
防災面での課題が想定される地区
（避難や消防活動など）

青井地内第６号線は一部幅員4m区間あり
（東側区間：幅員4.2～4.9m）
（西側区間：幅員3.2～4.3m）
※いずれも側溝0.3m含む区間あり

幅員4m以上の道路が少なく（南北軸が乏しい、東西主要道路も一部幅員4m未満区間あり）、防災面（避難や消防活動など）に留意した道路整備水準の向上が望まれる地区

※上記課題図は、道路幅員、都市計画道路の整備状況、接道状況等を踏まえ検討・整理したものです。

【④被災市街地復興推進地域（青井地区）の土地利用計画（たたき台）】　＜道路整備方針＞

■青井地区　道路整備方針（案）

◆道路整備方針

・国道445号は、拡幅整備（計画幅員14mでの整備）により、消防・避難等に資する２車線の車道と、安全で快適な両側歩道の確保を図る。
・細街路未整備地区（幅員4m以上の道路がなく防災面での課題が想定される地区）については、現道を活用しつつ「接道改善（宅地利用の増進）に資する４ｍ道路の整備」を行う。
・幅員6m以上の道路がなく防災面での課題が想定される地区（市道青井地内第６号線）については、現道を活用しつつ「避難路強化や消防活動等に資する６ｍ道路の整備」を行う。

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくりのイメージ（案）です。具体の取組み内容は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

【④被災市街地復興推進地域（青井地区）の土地利用計画（たたき台）】 ＜土地利用方針＞

■青井地区　土地利用方針（案）

- 商業・観光ゾーン（歴史文化・観光拠点に隣接する商業地として、生業再建と賑わい強化）
- 沿道商業ゾーン（幹線道路沿道の既存の商業・業務機能を維持）
- 生業・居住共存ゾーン（国道整備と併せ、日常生活サービス店舗（低層階）と都市型住居（マンション）を立地誘導）
- 居住ゾーン（低地から高台へ換地により戸建て住宅等の安全性を向上）
- 複合利用ゾーン（公共施設、ビジネス＋インキュベータ支援施設、都市型住居など低層住居以外の複合機能を導入）

- 幹線道路（点線は拡幅＋新規整備）
- 区画道路（同上）
- 被災市街地復興推進地域

青井阿蘇神社　宝来町　上青井町　青井町　九日町

現況通り　W=4m　W=5m（道路4m+水路敷1m）　W=9m（道路4m+水路敷1m）　W=14m　W=6m

0　0.1　0.2　0.3　0.4　0.5 km

＜歴史性に配慮した観光交流拠点施設の事例＞

◆民活による観光交流施設整備（熊本城桜の馬場）

・熊本城の玄関口相当に位置する桜の馬場に、観光交流施設として歴史文化体験施設等をＰＦＩ方式により整備（同一敷地内で独立採算事業として飲食物販施設設置事業も実施）

【施設内容】

〇歴史文化体験施設
- 歴史を楽しく学べる施設、歴史のクイズやゲーム
- 歴史資源等の模型
- プロジェクションマッピング、歴史ドラマ観劇
- 歴史なりきり体験（衣装・かご・馬術・石垣積みなど）

〇総合観光案内所　〇多目的交流施設（貸室）
〇飲食物販施設（食事・土産の店舗群）〇城下町風の環境

◆公園緑地の整備

公園緑地は、門前町としての地元・民間主導の賑わい環境整備（観光交流拠点施設など）と連携しつつ、一体的利用が可能な公園・広場として機能・規模・配置等について検討していく。

【整備イメージ例】

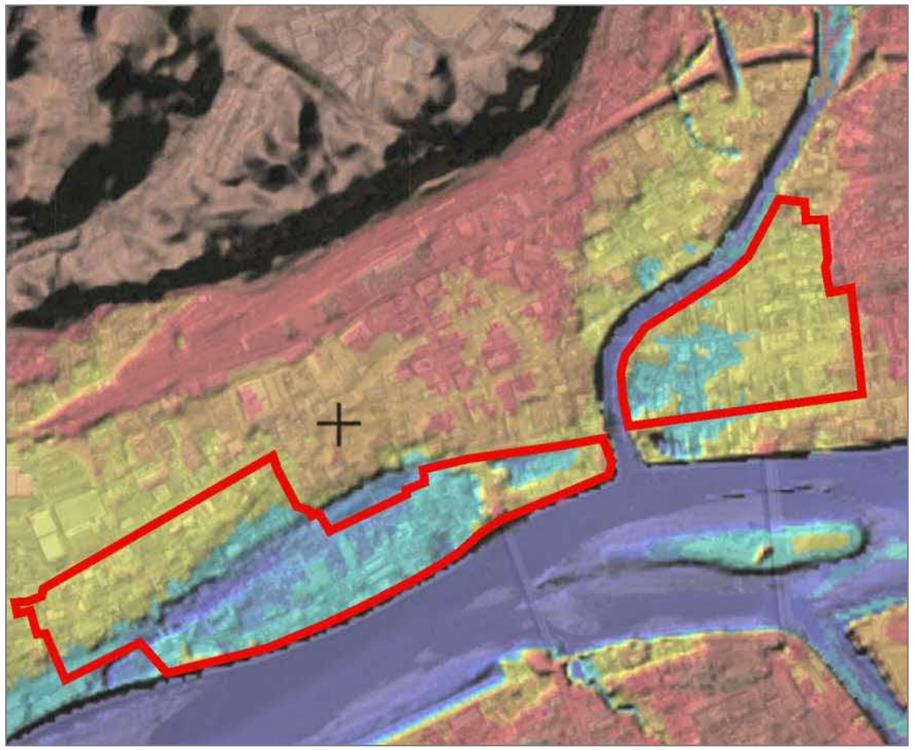
〇『球磨絵図』を活かした魅力ある環境づくり
〇交流・イベント広場（観光客の賑わい、地域住民等の交流の場）
〇やすらぎを感じる憩いの空間（芝生広場など）
〇周辺資源と連絡する散策路、まちなみ景観整備、など

※これまでの地区別懇談会の意見を踏まえた、復興まちづくりのイメージ（案）です。具体の取組み内容は、決定事項ではなく今後の関係者調整含めた具体化への精査・検討が必要です。

青井地区の整備に係る現状と課題(1/2)　～土地の標高や災害リスク情報～

＜浸水深、土砂災害危険区域、道路幅員等＞

＜土地の標高の状況＞

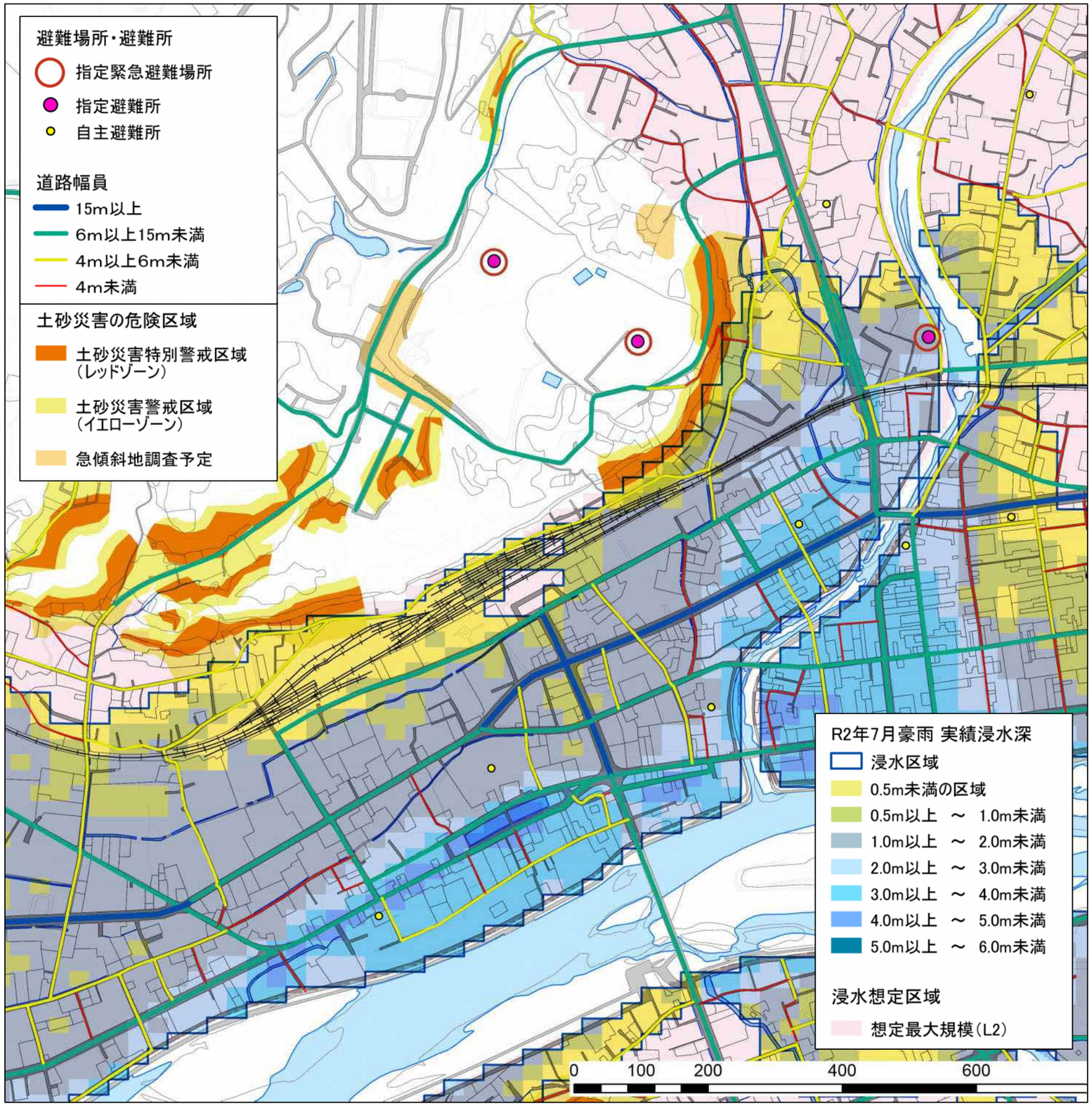


トップ ＞ 標高・土地の凹凸 ＞ 自分で作る色別標高図

自由に色分けできる標高地図です。低地の細かい標高の変化もよくわかります。

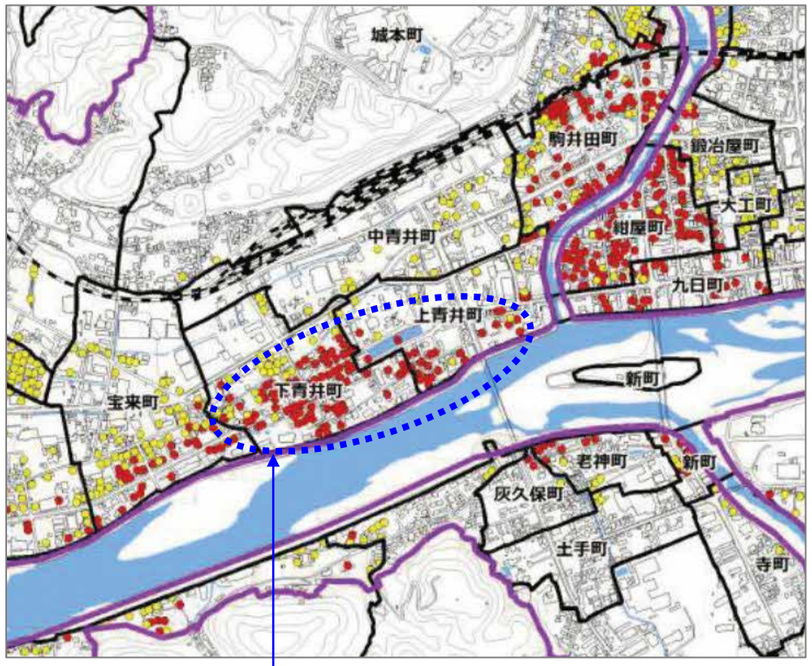
データ作成方法の違いにより水部とその周辺等で不自然な標高差が生じる場合がありますのでご注意ください。

	0m未満
0m以上	100m未満
100m以上	101m未満
101m以上	102m未満
102m以上	103m未満
103m以上	104m未満
104m以上	105m未満
105m以上	106m未満
106m以上	107m未満
107m以上	108m未満
108m以上	



青井地区の整備に係る現状と課題(2/2)　～建物被害や都市基盤の課題が集積する地区～

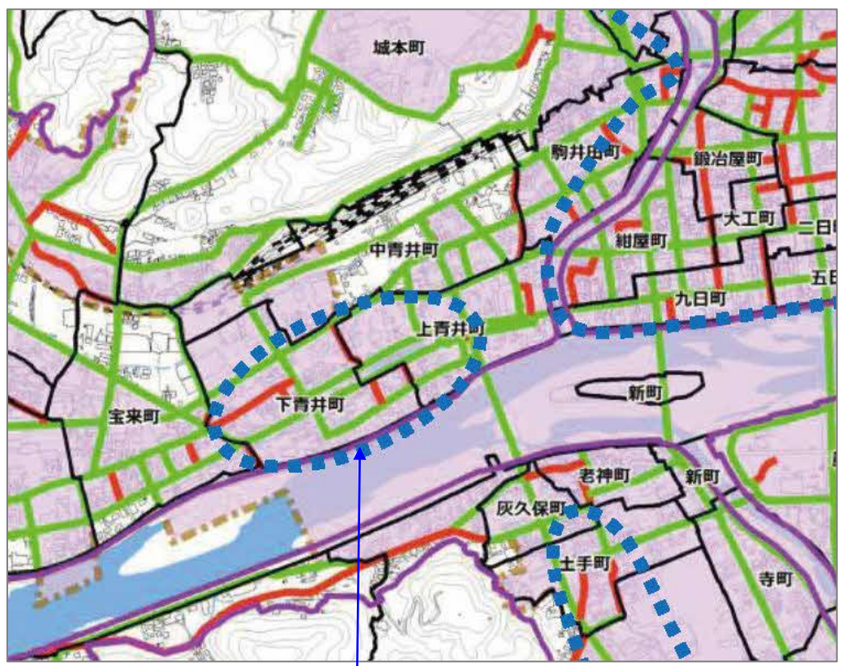
＜①建物被害の状況＞



被災申請(被害判定)
- 全壊
- 大規模半壊

大規模な建物被害が多い地区

＜②狭あい道路の状況＞



道路幅員
- 幅員4m以上
- 幅員4m未満
- 平成27年 DID

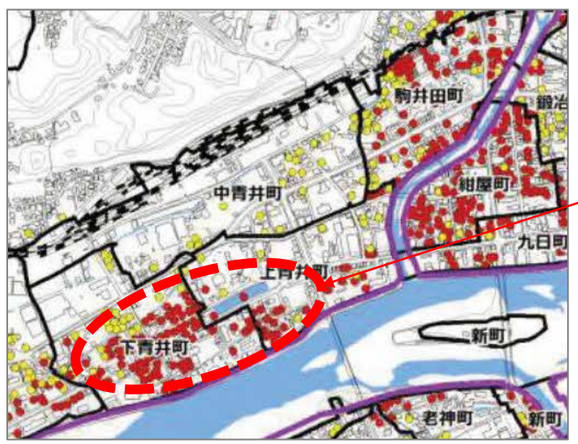
DIDにおける幅員4m未満の道路が多いエリア

幅員4m未満の道路が多い地区

＜③公園充足エリアの状況＞

避難場所
- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 福祉避難所
- 自主避難所
- 公園充足エリア(250m)
- 都市施設_公園

公園が地区内に少ない



大規模な建物被害が集積し、
道路・公園等の課題が重なる地区